

アーティスト・イン・レジデンス活動を通じた国際文化交流促進事業

【H28予算：110百万円 (H27予算：110百万円)】

目的

国内外の芸術家等が一定期間滞在し、様々な交流を通して創作活動や将来の創造活動等に有益となるプログラムを提供するアーティスト・イン・レジデンス（AIR）事業を支援することにより、AIR実施団体の国際的な協力関係が活発になり、国内外の芸術家等との双方向の国際文化交流が継続的に行われる状況を創出する。

現状

海外のAIR団体等との交流が萌芽



- ・海外のAIR団体から交換プログラム、情報交換の要望
- ・日本アーティストの招へい要望
- ・共同制作や日本での滞在制作受入先の相談

次の段階

海外のAIR団体等との日常的かつ、継続的な交流が実現



- ・国内のAIR団体と海外のAIR団体とが双方でアーティストを受入・派遣
- ・日本アーティストの海外での活動(作品発表等)機会を促進
- ・国内のAIR団体の認知度向上

事業内容

国内のアーティスト・イン・レジデンス団体に対する活動支援

国内外のアーティスト等が一定期間滞在して行う創作活動（制作，リサーチ，意見交換など）のサポート及び創造活動につながるアウトリーチ活動（作品発表，セミナー，ワークショップ等の交流事業，大学等の他機関と連携して行う交流事業）を実施する国内AIR団体を支援。

○双方向交流発展支援

海外のAIR実施団体との協力関係を強め，パートナーシップ協定等により行う双方向交流プログラム（アーティスト等の受入・派遣）を支援。

○双方向交流促進・牽引支援

海外のアーティスト等を積極的に受け入れており，今後の双方向交流が見込まれるプログラム，国内のAIR団体と連携して行うプログラムを支援。

- 我が国のアーティスト・イン・レジデンスが，国境を越えたアーティスト等の交流の場として機能
- 我が国のアーティスト等の海外における創作活動等の機会が拡大



「文化交流使」の派遣等

【H28予算：70百万円 (H27予算：71百万円)】

➤ 芸術家、文化人等を「文化交流使」に指名、世界の人々への日本文化への理解の深化、日本と諸外国における文化人のネットワークの形成・強化につながる活動を展開

日本の芸術家、文化人が一つもしくは複数の国に一定期間滞在し、日本の文化に関する講演、講習や実演デモンストレーション等を行う。

	氏名	プロフィール	派遣国
平成二十六年 度	岡田 利規	演劇作家・小説家	中国、韓国、タイ
	櫻井 亜木子	琵琶演奏家	アメリカ、エルサルバドル、ブラジル、イギリス、イタリア、アルメニア
	中澤 弥子	食文化研究者・長野県短期大学教授	フランス、ドイツ、ポーランド、ハンガリー、イタリア、スロバキア、イギリス
	林 英哲	太鼓奏者	アメリカ、トリニダード・トバゴ、キューバ
	林田 宏之	CGアーティスト	クウェート、ヨルダン、レバノン、サウジアラビア、バーレーン、ベトナム、タイ
	平野 啓子	語り部・かたりすと	ドイツ、トルコ
	山井 綱雄	金春流能楽師	カナダ、アメリカ、フランス
	若宮 隆志	「彦十蒔絵」代表	イギリス、フランス、中国

	氏名	プロフィール	派遣国(予定)
平成二十七年 度	青木 涼子	能×現代音楽アーティスト	アイルランド、フランス、ハンガリー、ドイツ等
	小野寺 修二	コンテンポラリーダンス・マイム・「カンパニーデラシネラ」主宰	ベトナム等
	畠山 直哉	写真家	メキシコ等
	藤田 六郎兵衛	能楽笛方藤田流十一世宗家	アメリカ、イギリス
	矢内原 美邦	振付家・劇作家・近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授	マレーシア、タイ、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール
	柳原 尚之	料理研究家・「近茶流嗣家 柳原料理教室」副主宰	ニュージーランド、ブラジル、アメリカ、カナダ等
	吉田 健一	「吉田兄弟」・津軽三味線奏者	スペイン、イギリス等



ワルシャワでの太巻き祭り寿司の実演の様子 (中澤弥子氏：ポーランド)



スタンフォード大学のスタジオにて大太鼓マスタークラスのワークショップを実施 (林英哲氏：アメリカ)

東アジア文化交流推進プロジェクト事業

【H28予算：170百万円 (H27予算：192百万円)】

背景

- 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)(平成27年5月22日閣議決定)
- ・東アジア各国との相互理解の促進

- 第4回日中韓文化大臣会合の成果文書「上海行動プログラム」に「東アジア文化都市」の実施を明記(平成24年5月5日)

- 第6回日中韓文化大臣会合の成果文書「横浜共同声明」に、「東アジア文化都市とASEAN文化都市との連携」を明記(平成26年11月30日)

- 第1回日・ASEAN文化大臣会合の開催(平成26年4月20日)

東アジア文化都市の実施(日中韓文化大臣会合行動プログラム事業)

日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施することを通して、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指す。

2014年から開始、各国1都市(2015年新潟市、青島市(中国)、清洲市(韓国))ずつ選定。

東アジア文化都市国内候補都市の選定・実行委員会への参画

2016～2018年の東アジア文化都市に指定された都市での活動内容を検討する実行委員会に参画。

東アジア文化都市中韓交流の実施

3か国共同事業と位置づけた交流事業において、中韓への我が国の文化芸術団体等の派遣及び中韓の文化芸術団体等の我が国への招へいを実施。

東アジアにおける芸術家等の人的交流・文化協力事業の実施

東アジア諸国との文化交流の担い手となる芸術家等の人的交流事業、東アジアとの文化協力を促進させる事業を実施。

<事業例>

- ・東アジア諸国との芸術家等の派遣
- ・日本が強みを有する文化分野の専門人材の派遣・指導
- ・文化分野における東アジア諸国との共同プロジェクトの実施
- ・国際フォーラムの開催 等

効果

■ 東アジア地域における文化交流の一層の発展、相互理解の増進、異質性の受容、信頼感を深化

■ 将来に向かっての東アジア地域の連帯感を強め、文化的な共生と創造を実現

■ 日中韓をはじめとする東アジア域内の文化芸術都市間等の交流の活発化

メディア芸術の振興のうち
メディア芸術の人材育成

【H28予算：232百万円 (H27予算：232百万円)】

メディア芸術は広く国民に親しまれ、新たな芸術の創造や我が国の芸術全体の活性化を促すとともに、海外から高く評価され、我が国への理解や関心を高めている。
また、メディア芸術は、我が国の文化振興はもとより、コンテンツ産業、観光、国際文化交流にも資するもの。

メディア芸術の一層の振興のため、「創造・発信支援」と「人材育成支援」を充実

創造・発信支援
831百万円 (757百万円)

文化庁メディア芸術祭等事業
375百万円 (355百万円)

- メディア芸術祭
- ・メディア芸術の総合フェスティバルとして、優れた作品を顕彰
- ・メディア芸術祭20周年企画展の開催 (拡充)
- ・障害者とメディア芸術に係る調査研究の実施 (新規)

- メディア芸術祭地方展
- ・地方において優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、総合的な展示・上映等を行う展覧会を開催

- 海外メディア芸術祭参加出展
- ・海外のメディア芸術関連フェスティバル等において、メディア芸術祭受賞作品をはじめとする我が国の優れた作品の展示・上映等を実施

メディア芸術連携促進等事業
337百万円 (287百万円)

- ・作品の所在情報等 (データベース) の運用・活用
- ・各研究機関等におけるアーカイブ化に係る取組みへの支援による相互連携 (20件) (拡充)
- ・連携共同事業等 (新領域創出、調査研究等) について、産・学・館 (官) の連携・協力による実施

アニメーション映画製作支援
119百万円 (116百万円)

- ・我が国の優れたアニメーション映画の製作活動に対する支援。(16作品)
- ・字幕・音声ガイド制作 (バリアフリー映画10作品) (拡充)

人材育成支援
232百万円 (232百万円)

メディア芸術人材育成等支援事業
232百万円 (232百万円)

メディア芸術クリエイター育成支援事業
22百万円 (16百万円)

- ・若手クリエイターが行うメディア芸術作品の創作活動を支援

若手アニメーター等人材育成事業
210百万円 (210百万円)

- ・制作スタッフに若手人材を起用し、制作段階でオン・ザ・ジョブ・トレーニング (OJT) を組み込んだ実際のアニメーション制作現場における人材育成を実施

※27年度まで実施していた海外メディア芸術クリエイター等招へい事業(6百万)は、メディア芸術クリエイター育成支援事業に統合

多くの人々に支持され親しまれている総合芸術であり、かつ海外への日本文化発信の有効な媒体である日本映画の振興を図る。

日本映画の創造・交流・発信

予定額 700百万円(687百万円)

日本映画製作支援事業【554百万円】

優れた日本映画の製作活動に対する支援
・字幕制作・音声ガイド制作(バリアフリー映画60作品) (拡充)

ロケーションに係るデータベースの運営【16百万円】

各地フィルムコミッションの持つ情報を集約したデータベースを作成しインターネット上で公開

文化庁映画賞【10百万円】

・日本映画界で顕著な業績をあげた者の顕彰
・優れた文化記録映画作品の顕彰及び上映会

海外映画祭への出品等支援【67百万円】

日本映画の海外映画祭への出品に対する支援

全国映画会議【15百万円】

映画界をとりまく課題等に関して関係者が意見交換を行うシンポジウムの実施

アジアにおける日本映画特集上映事業【31百万円】

アジア諸国において日本映画の特別上映や人材育成につながる交流事業を実施

「日本映画情報システム」の整備【7百万円】

日本映画に関する情報を集約したデータベースを作成しインターネット上で公開

自律的な創造サイクルの確立

人材の育成と社会的認知の向上

若手映画作家等の育成

予定額 161百万円(161百万円)

短編映画作品支援による若手映画作家の育成【120百万円】

ワークショップや実際の短編映画作品の制作を通して、若手映画作家等に映画製作に必要な技術・知識の習得機会を提供

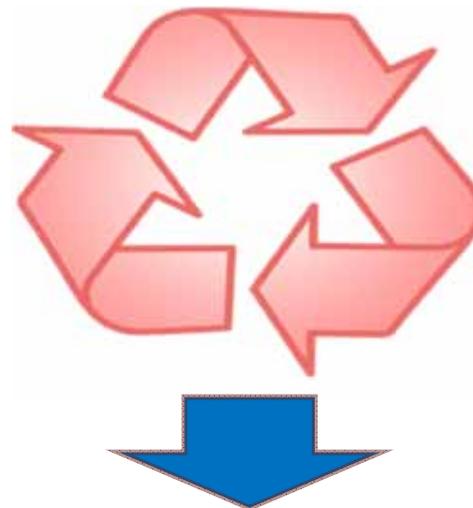
映画関係団体等の人材育成事業の支援【41百万円】

映画製作現場における学生の実習(インターンシップ)受入れの支援

映画フィルムの保存・継承

我が国の映画フィルムの保存・継承

東京国立近代美術館フィルムセンター



我が国の存在感を高める日本映画の振興と日本文化の理解の促進

芸術文化の世界への発信と新たな展開

【H28予算：962百万円 (H27予算：962百万円)】

趣旨

舞台芸術や現代アートなど、我が国の優れた芸術文化を積極的に海外に発信するとともに、各分野における国際文化交流を推進することにより、我が国の芸術活動の活性化、芸術水準の向上を図り、我が国の芸術文化の国際競争力を高める。

事業概要

音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術や映画、現代アートなど各分野における我が国の優れた芸術文化を世界に発信するため、海外のフェスティバルへの参加・出展、国内における国際フェスティバルの開催、海外の芸術団体との共同制作などの取組に対し支援を行う。

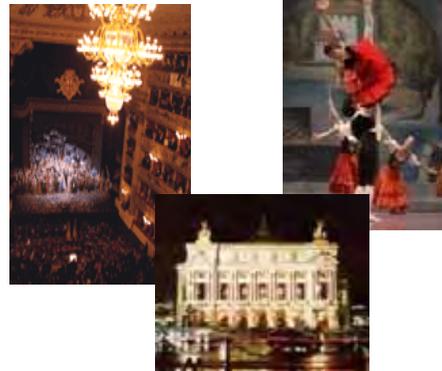
国際共同制作支援（舞台芸術）

我が国の芸術団体と外国の芸術団体との国際共同制作公演に対して支援

海外国際フェスティバル・展覧会 参加出展等支援 （舞台芸術、現代アート）

海外で開催されるフェスティバルや展覧会への参加や出展等を支援

(例) アヴィニオン演劇祭（フランス）、
ヴェネチアビエンナーレ（イタリア）、アートバーゼル（スイス）



国際フェスティバル開催支援 （舞台芸術、現代アート、映画）

我が国で開催される海外発信力のあるフェスティバル等に対して支援
(例) 東京国際映画祭

現代アートの海外発信の推進 （現代アート）

我が国の現代アートの海外展開に関するシンポジウムの開催、現代アートの国際情勢、国際展開に関する調査研究を実施

事業の実施

【効果】

- 我が国の芸術文化の世界的な評価が高まる → 世界への日本文化の普及とインバウンド拡大
- 世界における我が国の文化のプレゼンス向上 → 世界市場のシェアの拡充 → 日本ブランドの向上
- 国民が優れた芸術文化に触れる機会の充実 → 芸術文化への理解増進 → 心豊かな生活



新進芸術家グローバル人材育成事業業【H28予算：1,414百万円の内数 (H27予算：1,480百万円の内数)】

趣旨

才能豊かな新進芸術家等に、公演出演や展覧会出展などキャリアアップにつながるような機会を提供するとともに、技術の向上や知識の深化に資するワークショップ等の研修実施を通して、次代を担い、世界に通用する創造性豊かな芸術家等の育成を図る。また、芸術系大学が有する人的、物的資源を活用し、アートマネジメント人材や作品を鑑賞するものと作品をつなぐ「対話型鑑賞」を提供するファシリテーターの育成を図る。更に、国内外の実演家、プロデューサ、アートマネジメント人材等の人的交流の促進を図ることにより、文化芸術を支えるグローバル人材を育成するとともに我が国の文化芸術の海外への発信力の強化を図る。

事業概要

若手芸術家や演出家、舞台技術者、アートマネジメント人材など、我が国のこれからの文化芸術を担う人材を育成する観点から、実践的かつ、高度な技術・知識の習得するための研修機会（公演・展覧会、ワークショップ・セミナー等）や国際的な人的交流の機会を提供する。

統括芸術団体による人材育成事業

- ・若手芸術家等を対象とした、公演・展覧会、研修会、ワークショップ・セミナー等の実施

特色ある文化活動推進

- ・若手芸術家等を対象とした、複数の文化芸術の融合又は新しい分野の文化芸術の創造に資する公演等の実施

現代日本文学の海外発信基盤整備

- ・現代日本文学の翻訳・出版、翻訳コンクール等の実施



芸術系大学等連携における新進芸術家等人材育成

- ・芸術系大学と芸術団体が連携して行う若手芸術家等を対象とした、高度な技術・知識の習得を目的とした事業の実施

芸術系大学等におけるアートマネジメント人材育成

- ・芸術系大学等の資源、施設を活用したアートマネジメント人材、ファシリテーターを育成する事業の実施

実演芸術連携交流の推進

- ・国内におけるインターンシップや国内外の著名なプロデューサ等による国際会議等の開催 等

効果

文化芸術を支える人材の質が高まり厚みが増す
世界で通用する芸術家等が育成される
我が国の文化芸術を理解する外国人が増える



文化芸術の水準が向上
海外での招聘公演が増える



世界への我が国の文化の普及
我が国のブランドイメージ向上
インバウンドの拡大
世界における我が国の存在感の向上

世界に羽ばたく次世代を担う芸術家の養成



昭和42年度より実施
 平成26年度までに3,255名が制度を活用
 (平成13年度までは、芸術家在外研修事業により実施)

【派遣実績】

平成20年度 154名、平成21年度 109名、平成22年度 96名
 平成23年度 64名、平成24年度 88名、平成25年度 79名
 平成26年度 81名

我が国の将来の文化芸術の振興を担う人材を育成するため、美術、音楽、舞踊、演劇、映画、舞台美術等、メディア芸術の各分野の若手芸術家等に、海外で実践的な研修に従事する機会を提供する。

【研修期間】 1年(350日~200日、高校生研修含む)
 2年(700日)、3年(1050日)
 特別(80日)
 短期(20~40日)の5種類

【支給対象】 往復航空運賃・支度料・滞在費(日当・宿泊料)

〈これまでの主な派遣者〉

奥谷 博 (美術：洋画)	昭和42年度)
絹谷幸二 (美術：洋画)	昭和52年度)
佐藤しのぶ(音楽：声楽)	昭和59年度)
諏訪内晶子(音楽：器楽)	平成6年度)
森下洋子 (舞踊：バレエ)	昭和50年度)
野田秀樹 (演劇：演出)	平成4年度)
野村萬斎 (演劇：狂言師)	平成6年度)
崔 洋一 (映画：監督)	平成8年度)
鴻上尚史 (演劇：演出)	平成9年度)
平山素子 (舞踊：モダンダンス)	平成13年度)
酒井健治 (音楽：作曲)	平成16年度)
長塚圭史 (演劇：演出)	平成20年度)
萩原麻未 (音楽：ピアノ)	平成21年度)

メディア芸術は広く国民に親しまれ、新たな芸術の創造や我が国の芸術全体の活性化を促すとともに、海外から高く評価され、我が国への理解や関心を高めている。
また、メディア芸術は、我が国の文化振興はもとより、コンテンツ産業、観光、国際文化交流にも資するもの。

メディア芸術の一層の振興のため、「創造・発信支援」と「人材育成支援」を充実

創造・発信支援
831百万円 (757百万円)

文化庁メディア芸術祭等事業
375百万円 (355百万円)

- メディア芸術祭**
- ・メディア芸術の総合フェスティバルとして、優れた作品を顕彰
 - ・メディア芸術祭20周年企画展の開催 (拡充)
 - ・障害者とメディア芸術に係る調査研究の実施 (新規)

- メディア芸術祭地方展**
- ・地方において優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、総合的な展示・上映等を行う展覧会を開催

- 海外メディア芸術祭参加出展**
- ・海外のメディア芸術関連フェスティバル等において、メディア芸術祭受賞作品をはじめとする我が国の優れた作品の展示・上映等を実施

メディア芸術連携促進等事業
337百万円 (287百万円)

- ・作品の所在情報等 (データベース) の運用・活用
- ・各研究機関等におけるアーカイブ化に係る取組みへの支援による相互連携 (20件) (拡充)
- ・連携共同事業等 (新領域創出、調査研究等) について、産・学・館 (官) の連携・協力による実施

アニメーション映画製作支援
119百万円 (116百万円)

- ・我が国の優れたアニメーション映画の製作活動に対する支援。(16作品)
- ・字幕・音声ガイド制作 (バリアフリー映画10作品) (拡充)

人材育成支援
232百万円 (232百万円)

メディア芸術人材育成等支援事業
232百万円 (232百万円)

メディア芸術クリエイター育成支援事業
22百万円 (16百万円)

- ・若手クリエイターが行うメディア芸術作品の創作活動を支援

若手アニメーター等人材育成事業
210百万円 (210百万円)

- ・制作スタッフに若手人材を起用し、制作段階でオン・ザ・ジョブ・トレーニング (OJT) を組み込んだ実際のアニメーション制作現場における人材育成を実施

※27年度まで実施していた海外メディア芸術クリエイター等招へい事業(6百万)は、メディア芸術クリエイター育成支援事業に統合

1. 趣旨

昭和25年度から毎年度、芸術各分野において、優れた業績をあげた者またはその業績によってそれぞれの部門に新生面を開いた者に対して、芸術選奨文部科学大臣賞または芸術選奨文部科学大臣新人賞をおくることによって、芸術活動の奨励と振興に資する。

2. 部門及び受賞対象数

- (1) 演劇、映画、音楽、舞踊、文学、美術、放送、大衆芸能、芸術振興、評論等、メディア芸術の11部門によって実施する。
- (2) 芸術選奨文部科学大臣賞は、各部門2名以内（ただし、放送部門、芸術振興部門、メディア芸術部門は1名以内）を原則とする（計19名以内）。
- (3) 芸術選奨文部科学大臣新人賞は、各部門1名以内を原則とする（計11名以内）。

3. 選考方法

- (1) 各部門ごとに芸術に関し識見を有する者（当該部門の実演家、専門家及び学識経験者等）を選考審査員として委嘱し、候補者の推薦を受け、選考審査会を経て、受賞者を決定する。
- (2) 各部門ごとに推薦委員を設け、選考審査会に候補者を推薦する。

4. 選考基準等

- (1) 選考対象の業績は、前年の1月から12月までの間にあげられたものとする。
- (2) 年齢は原則として、大臣賞70歳未満、新人賞は50歳未満とする。
- (3) すでに国の栄典（叙勲、褒章）、日本芸術院賞、日本芸術院会員、人間国宝等を受けている者は対象としない。

5. 選考の日程

当該年の12月から翌年1月に審査会を行い、2月下旬内定。3月に贈呈を行う。

6. 贈賞

- (1) 芸術選奨文部科学大臣賞 賞状及び賞金30万円
- (2) 芸術選奨文部科学大臣新人賞 賞状及び賞金20万円

文化遺産オンライン構想の推進

【H28予算：99百万円 (H27予算：103百万円)】

文化遺産オンラインの概要

文化遺産オンラインは、①全国の博物館・美術館等の所蔵品（国宝・重文を含む）、②国指定文化財（史跡名勝天然記念物、歴史的建造物、無形文化財、民俗文化財等）について、概要・画像・所在地等の情報を国内外に広く発信することを目的に、文化庁が整備・運営するポータルサイト。

現状と課題

全国の博物館・美術館においては、収蔵品のデジタル・アーカイブ化が人員、経費等の問題から遅れている。文化遺産オンラインにおける、現段階での情報提供館も160館にとどまっており、近年あまり増加していないため、デジタル・アーカイブ化の支援を行い、文化遺産オンラインへの登録件数を増加させる必要がある。また、海外への情報発信に役立つ多言語サイトや旅行者が気軽に検索できるスマートフォン等で利用できるシステムの構築、さらに現在のシステムのセキュリティ強化等を行う必要がある。



文化遺産オンライン構築作業計画

	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
博物館所蔵情報掲載	→				→
国指定文化財画像掲載	→				
多言語サイト構築	→				
スマートフォンサイト構築		→			
普及啓発	→				



平成28年度事業内容

- ①ポータルサイトの整備・運用【継続】 ポータルサイトの維持・管理・システム改修
- ②登録情報制作業務委託事業【継続】 提供館の所蔵品情報のデジタル・アーカイブ化等を支援
- ③普及啓発活動【継続】 オンラインの登録や利活用の推進に資する普及活動を実施

文化財総合活用戦略プランの強化

【H28予算：9,626百万円 (H27予算：8,367百万円)】

<文化庁>

文化財総合活用戦略プランによる文化財群の一体的な活用推進及び国内外への魅力発信

日本遺産魅力発信推進事業

文化遺産を活かした地域活性化事業

地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

文化財建造物を活用した地域活性化事業

歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業

地域の特色ある埋蔵文化財活用事業

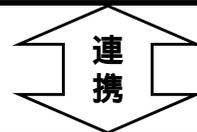
1. 日本遺産の認定促進

- 日本遺産の認定件数を2020年度までに100件程度とすることを旨とし、平成28年度は18件程度の新規認定を目指す。

日本遺産（地域型）の認定要件の1つとしている「歴史文化基本構想」の策定支援件数を拡充。

2. 地域の文化財群の魅力を効果的に発信する取組への支援の強化

- 文化庁・観光庁共同で開催する「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」において、文化財の魅力をわかりやすく外国人観光客に伝えるための表現上の留意点等について検討。
- 地域の文化財群の魅力を国内外へ効果的に情報発信するための総合的な取組に対する支援を強化。



【支援メニューの複合的活用の例】

<観光庁> 観光案内所の機能強化、Wi-Fi環境整備、周遊バスの実証運行などの**観光客の受入環境整備**

<国土交通省> 交通インフラの整備、無電柱化などの**周辺環境整備**

- ・ホームページや案内設備の多言語化を推進し、**地域の文化財群の魅力を効果的に国内外へPR**
- ・他省庁の施策と連携し、**インフラや受入環境を含めた一体的な整備を実施**
- ・周辺地域を含めた文化財群の総合的・一体的な整備・活用を推進し、**観光振興と地域経済の活性化を図る**



展示施設の整備、多言語化



無電柱化

地域が関係省庁の支援メニューを複合的に活用することで、観光資源を活かした魅力あるまちづくりと地域活性化を実現

日本古美術海外展

【H28予算：224百万円 (H27予算：38百万円)】

(1) 趣旨等

日本の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、我が国の歴史と文化に対する理解の増進と国際親善の推進に寄与することを目的として、昭和26年以降、日本古美術品の海外展を開催している。また、平成8年度からは、欧米での開催に加え、戦後50年を機会にアジアにおいてもアジア友好日本古美術展を開催している。

(2) 近年の実績

年度	展覧会名	会場・会期	出品件数	入場者数
H23	日本 仏教美術 -琵琶湖周辺の仏教信仰-	韓国 韓国国立博物館 (H23.12.20～H24.2.19)	展示作品数59件 うち国宝 4件 重文 31件	52,316人
H24	日本近現代工芸の精華	イタリア フィレンツェ ピッティ宮殿 (H24.4.2～H24.7.1)	展示作品数103件	約270,000人
H25	日本文化展	ベトナム ハノイ国立歴史博物館 (H26.1.16～H26.3.9)	展示作品数70件 うち重文 8件	約30,000人
H26	能狂言展	オーストラリア シドニー ニューサウスウェールズ 州立美術館 (H26.6.14～H26.9.14)	展示作品数164件	24,034人
	狩野派展	アメリカ合衆国 フィラデルフィア美術館 (H27.2.16～H27.5.10) 年度またぎ	展示作品数97件 うち国宝 1件 重文16件 重美 4件	71,050人
H27	日本の工芸未来派展	アメリカ合衆国 ニューヨーク市 ミュージアム・オブ・ア ーツ・アンド・デザイン (H27.10.20～H28.2.7)	展示作品数77件	